

韓国と日本の美意識比較

長谷 沙耶花

(内藤 登世一ゼミ)

目次

- はじめに
- 第1章 なぜ韓国と日本の比較なのか
- 第2章 韓国と日本の現状比較
 - (1) 韓国の身体感
 - (2) 韓国の外見管理
 - (3) 美容整形手術に対する価値観
- 第3章 多くの日本人が韓国の美意識に憧れる理由
- 第4章 まとめ
- 参考文献

はじめに

韓国は、美容大国といわれている。美容の最先端ともいえる韓国と、我が国日本の美意識にはどのような違いがあるのか？なぜ韓国は美容大国と呼ばれるのか？韓国と日本、それぞれの国における「美」の概念とはどういったものなのであるのか？

そして、日本人女性と韓国人女性の美容に関する意識や、求める効果の違いから、両国は美容に関して異なる文化を発展させてきた。しかし、どちらの国の社会にも「見た目の印象」を重んじるという考えが非常に強く根付いている。そこで、日本と韓国の化粧行動や美容整形手術に関する文献を調べてみた。

さらに、筆者は半年間の交換留学プログラムで、韓国に滞在する機会を得た。したがって、その留学した際に、筆者が韓国で実際に経験したことや感じたことにも言及したい。実際に自分の肌で触れてみると、日本において書籍や資料やネットで見ていたこととは違った、まったく新しい事実を得ることができた。

第1章 なぜ韓国と日本の比較なのか

筆者の母は、韓国生まれ韓国育ちの韓国人である。その韓国人の母に育てられた筆者は、小さい頃から銭湯に週2度は通い、アカスリやサウナを経験していた。そして、普段からもキュウリやジャガイモ、ヨーグルトやハチミツなど、野菜や食べ物を使ったパックを母にしてもらっていた。普段からアカスリやパックをしていることに対し、友達達は「なんで毎日パックをするの?」「アカスリは肌を削るから良くない」など、どちらかといえれば否定的な意見を言われることが多かった。しかし、筆者からすると、「逆になぜアカスリをしないの?垢が溜まったままになると汚いのに」と思っていた。それを母に質問すると、「韓国では昔から、アカスリをすることやサウナに入る事は伝統的な習慣で、日本人の価値観や習慣とは違う」と教えられた。

ご飯を食べる時には韓国料理が出てくるのは当たり前で、キムチや香辛料の入った物は、夏でも冬でも毎日食べていた。母の友達や周りの女性は全員が韓国人なのだが、その女性達は綺麗な人ばかりだった。化粧をしても、していなくても日本人女性とは違う独特の綺麗さ、そして美容に対する意識の高さを子どもながらに感じた。しかしその当時は子どもだったということもあり、その独特な美意識について深く考えることはなかった。

だが、現代の大型銭湯では当たり前のように韓国式エステや韓国式アカスリのコーナーがあり、自分自身が女性として成長していくにつれ、自分が当たり前と思っているその生活スタイルは、日本人の子どもや友達と比べると少し違うのではないかと、また筆者の母が行っていた生活スタイルのように、韓国人の「美意識」はその普段の生活からつくりあげられているのではないだろうか、と

韓国と日本の美意識比較

様々な疑問が浮かび、この研究を始めるきっかけになった。

韓国は美容大国といわれている。美容の最先端ともいえる韓国と、我が国日本の美意識にはどのような違いがあるのか？なぜ韓国は美容大国と呼ばれるのか？韓国と日本、それぞれの「美」の概念とはどのようなものであろうか？

韓国での伝統的な習慣が昔からあるということは、韓国の方が昔から美に対する意識が高かったのか？なぜ日本では、現代の方が韓国の美容法を取り入れ、韓国人の美意識に憧れる日本人が増えたのか？

日本人女性と韓国人女性の美容に関する意識や求める効果の違いから、両国は異なる文化を進展させてきた。しかしどちらの国の社会にも「見た目の印象」を重んじると言う考えが非常に強く根付いている。こうした理由から、日本と韓国の化粧行動や美容整形手術に関する文化を調査してみた。

第2章 韓国と日本の現状比較

韓国人が1日のうち美容にかかる時間は日本人の約2倍(67.6分)と言われている。サウナやアカスリ、パックといった肌そのもののケアや、日常的なデトックス習慣や肌に良いものを取り込む習慣、他にも皮膚の管理など身体を日常的にケアするという習慣が根付いていると考えられる。これは韓国の儒教による身体的規範からきているのだ。日本と韓国は地理的、歴史的に密接な関係を持つが、美意識については対照的な特徴を持っているとして取り上げられている。

日本では「顔より心」と言われるのに対し、韓国では「心の綺麗な人は顔も美しい」と言われる。このように、「形的美 = 内面美」という図式があるのだ。つまり韓国では「美」を明瞭に形や外見に表し、形を変えることを厭わないストレートな文化があるとされる。その意識が顕著に表された文化的現象としては、韓国の社会的特徴としてたびたび取り上げられる美容整形手術の経験率の高さが挙げられる。

前章でも挙げたように韓国においては、歴史的に全身美容・健康法として現代でも日常生活にお

いて取り入れられている汗蒸幕(ハンジュンマク)やアカスリ、自家製パックなどがあり、これらの美にまつわる現象は日本においてあまりみられることはない。韓国人のチムジルバン(日本でいう銭湯)にいくと、まずお湯に浸かり、体を温めサウナで汗を出す。すると新陳代謝があがり、垢が出やすくなったところで、アカスリを始める。アカスリが終われば、冷たい水風呂で体を冷やし毛穴を引き締める。これを週2回行っている母は、肌の乾燥や黒ずみがなく21歳の筆者が羨ましくなるほど肌が綺麗でツルツルとしているのだ。実際に、肌を温めてから冷やすことを交互に行うことは、医学的にも新陳代謝をあげる方法として挙げられている。

そして、唐辛子などの香辛料が入った食べ物やキムチを毎日摂取することも、体の基礎代謝をあげることとして代表的である。こういった普段から新陳代謝を活発にあげる生活を送ることで、常に体から毒素が出ていく体質が作りあげられるのだ。日本人の食事には香辛料が入った食べ物はあまり出てこない。そのため日本人よりも、韓国人の方が内側からの毒素が少ないと考えられる。

パックに関しては、韓国人は皮膚を重要視する傾向があり、まず肌や皮膚トラブルが起こると皮膚科に通うのは当然の風習で、定期的にピーリングや皮膚再生治療に通う人も多い。一方、日本でも、乾いた肌をブラシでこするドライブラッシング法や食べ物の小豆(あずき)を利用したフェイシャルパックなど昔から伝わる伝統的な美容法はいくつかある。他にも椿油や米ぬかを使ったスキンケアや、あぶらとり紙といったメジャーなものもある。

だが個人的に思う事は、韓国のようにアカスリや汗蒸幕(ハンジュンマク)などはとても代表的かつ有名で、韓国の美容法といえば必ずその2つは出てくる。だがそれに比べ、日本の代表的な美容法は、と聞かれるとあまり答えられないような気がする。色々な美容法を調べたが、でてくるものは美肌・美髪のための方法ばかりで、韓国のように日常的に生活習慣から取り入れる伝統的な美容法は、日本では少ないということが分かった。

現代の日本で流行している美容法はいくつかあるが、多くは、海外から取り入れられたものや外

国人モデルが日本で流行らせたものなのである。この違いを生じさせたと考えられる最も有力な文化的背景として、韓国の身体感が考えられる。

(1) 韓国の身体感

韓国において儒教は、現代社会の生活のなかでの論理規範として浸透している。その中で「孝」は最も韓国社会で重要とされている価値観である。「孝」の身体への規範は「身体髪膚これ父母に受く、あえて毀傷せざるは孝の始まりなり」である。(人の身体はすべて父母から恵まれたものであるから、傷つけないようにするのが孝行の始めである、という意味)これは中国の孝経の一節なのだが、日本でも同じように論理規範として浸透している。

この規範が、韓国人が日常的に身体のケアを入念に行うことの原因となっている可能性が一つとして考えられる。しかし、こういった価値観が重要視されているにも関わらず、むしろ社会的現象にもなっている「美容整形手術」が多くなっている。ということは、美容整形手術に関する態度を解明するには、さらに韓国の女性が置かれた社会的背景、および女性独自の身体観についても検討する必要があると考えられる。

韓国人女性は、一般的に美しくなりたくて美容整形手術をするといわれており、日本人女性は、一般的に自己の容貌に対する評価が低いので普通になりたいと言って美容整形手術をするようだ。現在の日本社会は外見至上主義社会であり、若さ・健康・美しさが大切であるという美的価値の画一化が起きている。これをファストビューティーと言う。この背景には、国家を単位として文化的価値を比較したり他人と自分を価値の点で比較したり、個人が知識を強めたと言うことがある。こうして化粧の社会的地位が上昇し、化粧がアイデンティティと人間形成に多大な力を持つということが明らかになった。

現代に対して次世代では、人それぞれの美しさ・年それぞれの美しさを求めるスロービューティーが求められる。これは、個性の発露を促進させ歓迎する社会である。そのためこれを目的とした化粧教育があらゆる世代に必要とされているのである。

外見に対する価値観の比較としては、韓国において自己の外見の魅力を高めようと努めることは、自己の知識や技術を高めるために努力することと同様に、好ましい行動として捉えられるとされている。これに対して日本は、「顔よりこころ」とされる価値観があるため、むやみに外見を装飾したり加工したりする行為は好ましいとされない傾向があるように思われる。美容整形手術についての考察は後述するが、身体的外科的処置に対する態度は、このように顔そのものの捉え方が文化により異なることも重要な規定因となっている可能性が考えられる。

(2) 韓国の外見管理

日本においては顔剃りや脱毛といったヘアのケアが入念であり、日本人に独特な無毛指向がうかがえる。日本在住の外国人に聞いた『驚いた美容法アンケート』でも、日本人の肌の毛処理のまめさに驚かされているようだ。他にも、別人のようになる化粧のテクニックや目の一重を二重にするアイテープなどの美容グッズがある。さらに日本では「メイクサービス」の経験率が高かったことから、化粧に対する日本人のこだわりの強さや、日韓における化粧品販売の戦略の違いの可能性もうかがえる。

韓国ではアカスリやサウナ、顔パックといった肌そのものへのケア、さらにそれらは伝統的な美容法であるという点で日本とは異なる特徴が認められた。韓国ではやはり、儒教による身体規範から、身体を日常的にケアする習慣が根付いていると考えられる。

日本と韓国の女子大学生を実験参加者として、同年輩の日本と韓国女性の顔写真を用いて顔の形態的特徴と魅力との関係、さらに民族性の識別についての検討が行われている。その結果、高魅力の人物は両国でもともに一致し、「美しい」、「派手」と認知されている。しかし、韓国人に比べて日本人のほうが、呈示した人物の美的水準に鋭敏に反応しているという違いが得られた。また、韓国人の方が人物を明確に自国人らしいと離別できていたが、日本人参加者はそうではなかった。

しかし、日本人は自国人をより肯定的に評価していた。すなわち、日本人は暗黙のうちに民族的

な違いに反応し身近な特徴を持つ者への親近感を持っていながら、そのことを意識していないのであった。また、注目すべきことに、日本人では美的であれば「好き」、「かわいい」と言うように、認知する意味の重複が大きいものに対して、韓国では評価次元の意味の独立性が日本人よりも高かった。すなわち、韓国人は多面的な見方ができるのに対し、日本人の見方はより単純であったと言うことになる。このように、民族間によって、顔の捉え方、それに由来する魅力の捉え方に違いがある。

(3) 美容整形手術に対する価値観

韓国では、「医学の進歩で美しくなることは良い」「美容整形手術を受けて綺麗になることに賛成」といった意見が多く見られる。それに比べ日本は「美容整形など顔や体にメスを入れるのは嫌」という意見が多く見られる。日本でも報道されているが韓国には美容整形手術が多く、特に芸能人は多くの割合で美容整形手術が浸透している。

韓国イコール美容整形と思いがちであるが、美容整形手術はもちろん日本にもある。韓国と日本では考え方が異なっており、美容整形手術をした大半の日本人は事実を隠そうとするが、韓国の女性は整形したことを「私は整形して美しくなったでしょ」と堂々と話す傾向がある。また、自分の母親から「あなたは鼻が低いから、美容整形で高くしたほうがいい」と美容整形手術を勧められるケースもある。もちろんこれには外見的に美しい女性を求める、男性側の責任もある。二重まぶたの整形手術は手術のうちにも入らないようで、「ちょっと行ってくるよ」と美容室に行くのと同じ感覚である。韓国では美容整形はアクセサリーのひとつとも言われており、韓国は日本よりも女性の化粧に対する意識が高いといえる。

日本の場合、信頼できるブランドであることが、選択基準の中で大きなウエイトを占めているが、韓国では、実際の効果や成分とその費用対効果に対する関心が高いのだ。韓国で行われたある調査によると、女性が出世するための条件として能力、努力に次いで容姿をあげる人が20%にものぼった。男性の場合、能力、努力、学歴、人脈の順であり、容姿がほぼ無視されるのと好対照である。

若い男女が付き合う場合も、女性は男性のユーモア感覚を高く評価するが、男性は女性の容姿に重きを置いている。極端な言い方をすれば韓国では、美人か美人ではないかの二元的世界であるため、後者の場合は肩身が狭い。「美人」である事は、専門知識や外国語の実力とともに必須条件に変わりつつある。そこで、多くの女性は競争力を備えるために美容整形手術を選ばざるをえない。

20代から30代までの男性を対象とした調査で、合コンやお見合いで会った女性が整形美人であることが分かったとき、80%の男性が「構わない」と答えた。その答えが事実なのかどうか気になり、実際に韓国へ留学した際に沢山の韓国人男性に質問をした。彼女に対して何を求め重要視するのか？この質問の結果、「顔（見た目）」と答えた男性が圧倒的に多かった。それも、考える時間も無く即答であったことにも驚いた。そしてその次には「スタイル」と、やはり内面ではなく外見を重視した答えだったのだ。

最近では、男性の方から積極的に整形すべき箇所や理想的なタイプを教えたりと、細かいところまでアドバイスするケースが多くなっているという。一昔前は学生が美容整形手術をするとなると、人に知られたくないので冬休みなどの長期休暇に受ける場合が多かったが、最近は周りを気にする様子もなく、時間的に余裕のあるテスト期間中にやってしまうことも少なくはない。近年では、美容整形手術を受ける人の割合が高くなり、しかも老若男女を問わずなくなっている。40代、50代の中年女性やサラリーマンまでもが、自分の商品価値を高めるために必死になっているのだ。

筆者が留学した際、とても有名で芸能人が多く通う美容整形外科と一般的な美容整形外科へ診断に行ったのだが、当時韓国のお盆の時期だったこともあり診断予約をとるのにも時間が限られ、どちらの美容整形外科もびっくりするほど沢山の学生で溢れていた。その光景を目の当たりにし、これがあの美容整形大国といわれる韓国の姿か、と実感したのが正直な気持ちだった。また、留学先の大学は女子大学だったのだが、友達との会話でも当然のように、どこの美容整形外科で施術するか、どの部位をどの形にするか、などのリアルな意見を聞く場面も多々あった。その会話と、実際

に美容整形外科で質問した話によると、20代前後は二重手術などの目に関する手術が圧倒的に多く、次に鼻を高くするなどの鼻に関しての手術が多い事が分かった。そして30代以降は、顔のたるみを引き上げるリフトアップに次いで、ハリを与えるボトックスが多いそうだ。確かに若い間に目や鼻を完成させれば、後々は肌を管理するだけで済むし、簡単なボトックスなどで美を維持することができる。

ある新聞では「経済が低迷している韓国で、不美人が就職できるのは至難のわざで、美人を好む風潮には逆らえない」と語っているほどだ。就職活動をする韓国の女性は、履歴書に貼る写真がどれだけ美しいかが重要であり、そのために美容整形手術をすることもあるという。前述したように、親からももらった顔を傷つけるのは良くない、といった身体的規範は現代では重視されていないと考えられる。むしろ、本人が納得しているのであれば美容整形手術は決して悪いことではないと思うため、韓国の美容整形文化を否定する考えは筆者には無い。

実際に半年間の留学経験で、美容整形手術に対してオープンである環境にいて自然とその流れに乗ってしまうように感じた。綺麗な人が多い、綺麗な人がもてる、綺麗な人が優先される、そんな韓国の状況にいて躊躇せずに美容整形手術を受け、綺麗になろうとする美容意識が高まるのも感じられた。

しかし、こんなにも女性の容姿が重要視される社会には問題があるようにも思う。女性の価値は容姿だけで測れるものではなく、もっと多面的に見る必要もあるのではないか。また、見た目の印象は相手と対面した瞬間から、何よりも先に伝わる自分の情報なので重要視することもうなずけるが、韓国に限らず日本でも証明写真の補正はできる。また近年ではプリクラで目を大きくしたり小顔にしたりする技術が若者の女性に人気で、見た目重視の流れはより強くなっている。しかし見た目の良さが、その個人の内面や能力をそのまま表しているわけではないため注意が必要である、といった考えもあるようだ。織物がよく発達できていなかった原始時代には、原始部族は服で自分を表現するより、人体を変形したり、飾り付けたり

することで自分自身を表現していた。このような現象は、現代の外見の管理行動にも表われる。

今から論述するある研究の目的は、様々な形で表出する現代女性の美意識に対する欲求を知るため、時代の流れに反映された現代女性の顔のイメージと意識を把握し、それについての美容整形手術に対する認識を把握することである。このような研究目的を達成するため、18歳以上の成人女性810人と整形外科専門医の10人を対象に、設問調査を通じた実証研究が行われた。その結果が以下である。

- ① 成人女性の顔に対する意識を分析した結果、自分の顔についての満足度と評価は低かったが、外見についての重要度は高かったため、現代女性の外見に対する葛藤水準が高いことが分かった。
- ② 成人女性の美容整形手術についての認識を分析した結果、美容整形手術が必要だと言う答えが72.6%と、美容整形手術が成人女性の身体の不満足な弱さを補完することの助けになると認識された。また未婚者及び、美容整形手術の経験がある女性が今より美しくなるなら美容整形手術に賛同するという意見があり、その理由としては「自己満足」のために美容整形手術を選択するという研究結果が明らかになった。
- ③ 整形外科専門医に対し、顔についての美意識を分析した結果、理想的な見た目を維持するための効果的な方法としては運動が31.7%と最も多く、人の美しさを決定することにあって、見た目が60%、内面が40%であった。また他人の見た目を判断する時、重要だと思う部分としては顔が25%と最も多かった。
- ④ 整形外科専門医に対し、顔についての意識を分析した結果、美容整形手術を行う年齢は、身体的成長と自意識が完成される時期の18才が適切だと75.5%がみている。これを見ると、美容整形手術をするためには身体的成長時期も重要だが自意識の感性も考えるべきであることが分かった。

第3章 多くの日本人が韓国の美意識に 憧れる理由

このような研究結果をもとに、現代女性の美意識欲求はとて強く、美容整形手術をその道具として活用していることを知ることができた。そして、現代の美容整形手術は否定的な自意識を減少させるような影響があることも確認できた。美容整形手術を受けた大部分の人々は、手術の結果に満足し、変わった顔に肯定的な感情を持っている。見た目が重要な現代社会で、美容整形手術の欲求が上がる事は自然なことである。したがって、美容整形手術は批判的な観点で外見の整形が美的権利であるが、精神の治癒と言う肯定的な機能も持っている。ただの外見の劣等感を解決するための整形ではないという、正確な現実認識を必要とする。昔から今の時代まで変わらないものとして女性達の美しさについての熱望をあげることができる。

特に最近「見た目」が1つの競争力として認められ、女性だけでなく男性達も自分の外見に関心が高くなったり、実際に美容整形手術を受けたりする男性も増えている。昔は、美容整形手術を無条件的に批判的な視線でみたり、影で話したりすることが多く見られたが、最近では、そんなことよりも自分のコンプレックスを認め、それを運動や美容整形手術を通して克服する人も多い。むしろ今の時代だからこそ、そのような人々を、勇気があるとして自分のコンプレックスを克服したことを褒めるのかもしれない。

筆者も女として、自分の外見に関心はあるし、このような時代だからこそ自分という姿をよく分析し、コンプレックスを克服する考えや行動には賛成できる。他にも、「美しさの必須条件が『見た目の美しさ』である」という認識はやはり強く、美しさを求める女性の思いは古くから変わらない。しかしその欲求を追求することが、場合によって批判されることがあるのが現実だ。美容整形手術をすることで自分に自信を持ち、前向きになれることを否定するのは、女性の思いを踏みこむのではないか。」といった意見もある。

前述したように、日韓の美意識は対照的な特徴

をもっているため、日本人は髪や肌の形態的美しさに注目しているのに対し、韓国人は顔をコミュニケーションツールとして認識しており、美しくなるための外化的な処置に受容的であることが示される。そのため、美容整形手術の普及していることの原因としては、韓国の現代女性が目標とする美のモデルが欧米人である、という点である。

そして、身体的規範の「孝」は重要視されているが、「孝」以外の「女性のもっとも重要な役割は子供を産むことであり、その身体は個人のものというより親族で共有する主体のない身体」とした教えが重要視される。したがって、美容整形手術も自己を表現する手段ではなく、大衆に合わせる行為として取り入れられると考える。さらに化粧行動のもつ心理的効用には、化粧行動自体がもつ効用感・对人的効用・心の健康の3つが挙げられる。

外見に対する価値観の日韓比較では、日本人は自己の欠点をできるだけ無くそうとする傾向があり、韓国は顔をコミュニケーションにおける重要なツールと認識しているからこそ、外科的な手術で改善することに積極的であると考えられる。美容整形手術における認識としては、韓国は自己の知識や技術を高めることと同様に好ましい行動として捉える。また化粧行動のありかたも日韓には差があり、日本人は他者を意識してではなく化粧行動そのものを目的として、化粧による気分転換や積極性の向上などをめざす。対して韓国人は他者を意識し、他者からポジティブな評価を得るための手段として化粧を行う傾向にある。

化粧を具体的な社会的、文化的現象と考えたとき、日本文化としての化粧とはいかなるものかと考えたとき、それは人と人、または人と社会をつなぐ重要な手がかりになる。それはその時代の雰囲気に応じて秩序ある発展をしてきた現象であり、歴史的な原動力の動きに対応している。人間の生活経済が狩猟採取で成り立っていた時代は、呪術や信仰、自己の所属する集団への帰属意識と統一を表彰するための化粧であった。男女も関係なかった。それが支配層と被支配層の関係、次にその時代の道徳や論理に影響を与えられながら発展する。そして社会や文化が細分化され、過去の共

通化された化粧行動・意識から解放された時代には、複数の化粧行動・意識が展開されている。

現代の若者は化粧について、「魅力向上・気分高揚」「必需品・身だしなみ」「効果不安」の3つの意識を持っており、新聞やテレビ、雑誌、家族、異性、といった様々な人物やメディアとの接触によって促進、抑制される。化粧は外見の美だけに意味を持つのではない。それは個人内でも完結せず、個人と個人の間、さらには集団と集団の間に広がる複合的で多重的な構造を持っている。そこでは暗黙的に社会や個人内で規定された基準をもち、共有している。だからこそ、日本人にとっての化粧は、人と人や、人と社会をつなぐ重要な手がかりとして認識されているのだ。

日本では化粧行動そのものから得られる満足感が、韓国に比べて大きい可能性が示される。美容整形手術が韓国では割と一般的であるといわれているが、そこに歴史的背景や宗教的背景があるとは思わなかった。また韓国では、美の目標が欧米人であるとされたが、それは日本人も同じだと思う。やはり心を重んじる、という意味で身体を変化させることに抵抗を感じるというのには納得だが、「こころ」を重んじるという綺麗な意味合いよりは、身体を傷つけることへの恐怖や懸念が強いのではないかとも思う。

ある文献によると、「人間は美的動物である。人間だけが『美しさ』のために芸術を追求する事ができるし、美の本質について探求する本性を持っている。本研究の対象である美容整形手術は、このような本質的な考えが科学や医学の発展で実現した結果と見られる。

美容整形手術は美しさに対する関心や固定観念に基づく行為で、美容整形手術自体が個人的な満足よりも社会的な関係の中で、認定をもらうための行為となっている。美的価値観が変化して美しさが教育のような投資の対象となる。つまり、人的資本の一つだと認識されるにつれ、美容を目的にする整形手術は全世界的に急増するようになった。また、楽しみや快楽を追求している現代消費者にとって、美容整形手術は必要な分野だ。そのため、最近の医療業界でも美容整形医科が人気であることが感じられる。

全世界的に、「美しさについての関心が高まり

身体についての価値観も大きく変化している。」と言われる。人間の美に対する追求心は、日韓ともに大変強く、化粧や美容整形手術をして自分の顔を変えることで自信を持つとすることももある。その純粋な欲求を否定はしないが、安易に美容整形手術を行おうとするのはリスクも伴う。そのため美容整形手術に関する知識や情報の収集をするのはもちろん、美容整形手術業界が女性達の気持ちに配慮したサービスを徹底することも重要である。

第4章 まとめ

最後に、Q&Aの形式で、韓国と日本の美意識について明らかになったことをまとめてみたい。

Q1. 美容の最先端ともいえる韓国と我が国日本の美意識にはどのような違いがあるのか？

A1. 日本人は形態的美しさに注目しているのに対し、韓国人は儒教による身体的規範から顔をコミュニケーションツールとして認識しており、美しくなるための外化的な処置に受容的である。日本では「顔より心」と言われるのに対し、韓国では「心の綺麗な人は顔も美しい」と言われる。日本人は他者を意識してではなく化粧行動そのものを目的として、気分転換や積極性の向上などをめざす。それに対して韓国人は他者を意識し、他者からポジティブな評価を意識しているという違いがある。

Q2. なぜ韓国は美容大国と呼ばれるのか？

A2. 韓国人は日本人の約2倍(67.6分)もの時間を美容に費やしている。サウナやアカスリ、パックといった肌そのもののケアや、日常的な食事から基礎代謝をあげるデトックス習慣を普段から取り込んでいる。また、歴史的に全身美容・健康法として現代でも日常生活において取り入れられている汗蒸幕(ハンジュンマク)やアカスリ、自家製パックなどがあり、これらの美にまつわる現象

韓国と日本の美意識比較

は日本においてあまりみられることがない。そして日本の場合、信頼できるブランドであることが、選択基準の中で大きなウェイトを占めているが、韓国では実際の効果や成分とその費用対効果に対する関心が高いという点での違いから、韓国では最先端を求め、次々と美容アイテムや美容法が生まれ美容大国と呼ばれている。

Q3. なぜ日本では、現代の方が韓国の美容法を取り入れ、韓国人の美意識に憧れる日本人が増えたのか？

A3. 昔の日本では汗蒸幕（ハンジュンマク）やアカスリといった美容法は浸透していなかったため取り入れることは無かったが、皮膚を重要視する韓国人の徹底された綺麗な肌に注目した結果、韓国人が日常的に行なっている美容法を日本でも取り入れた。それは一世を風靡した韓流ブームが到来した時期がきっかけと考えられる。日本人の女性と韓国人の女性の美容の違いは、まず「どのような意識のもとで行うか」である。日本人の場合、自分の欠点や気に入らないと思うところを隠したり、なくしたりしたい、といった考えから化粧や美容整形手術を行う。

一方、韓国人の場合は外見を磨くことで内面も磨き、自己を高めたいと言う積極的な姿勢で美容整形手術を行う。そのため韓国では、美容整形手術が一般的に認められているが、日本ではあまり肯定的に認識されてはいない。しかし両国とも「見た目を重視する社会」とであると言う点や、「化粧は女性の身だしなみである」という点において変わりはない。また、その化粧文化は古くからそれぞれの国の歴史的背景に影響されながら発展し、両国の「社会コミュニケーションの手段」となって現代に至っている。化粧した顔も整形した顔も『素颜』ではない。また、私たちは日々何かしらの形で着飾ること、化粧することから免れる事は無い。よって整形手術を日本では批判的にとらえる必

要もないはずである。しかし美容整形手術が広く普及するようになると、十分な知識情報もなく安易に行うものもでてくるため、美を追求する女性たちは慎重に情報を収集する必要がある。きっとこれからも韓国では最先端の美容法が生まれ、美を追求する女性達はその先までも追い求めることだろう。

『一個の道具のように自分を分析しなさい。自分自身に対して100%率直でなければなりません。欠点を隠そうとせず、正面から向かい合うのです。』

オードリー・ヘップバーン

『見た目がどうであれ、女性は自信をもっていればセクシー』

パリス・ヒルトン

これは筆者が憧れる女性の言葉である。昔から女性は「美」を追求する生き物だが、現代の美容文化は少し発達しすぎなのではないかという思いもある。結局、「美」の答えはまだまだこの先も分からないし、見た目を重要視するこの現代でこれからも永遠に進化し、追求され続けるだろう。この研究の結果、今の自分をもっと大切に見ようとも思ったし、自分を見失わずありのままの姿を磨いていきたいと思った。この言葉のように、女性で生まれた以上、女性としての「美」の楽しみが全ての女性に理解されることを願っている。

謝 辞

本研究を作成するにあたり、様々なご指導、ご指摘を頂きました人間文化学部 国際ヒューマンコミュニケーション学科の内藤登世一教授に深謝致します。また、韓国留学で新たな事実を知ることができた事においても、内藤登世一教授の丁寧かつ熱心な留学の助言を頂いたおかげで、そうした真実を論文として残せる事ができました。心から感謝と御礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。

参考文献

- 石田かおり (2009) 化粧と人間 規格化された身体からの脱出 法政大学出版局.
- 金聡希、大坊郁夫 (2011) 大学生における化粧行動と主観的幸福感に関する日韓比較研究
< <http://ci.nii.ac.jp/naid/120004842939/> >
- 対人社会心理学研究 編集委員会編 (11) 大学生における化粧行動と主観的幸福感に関する日韓比較研究 『対人社会心理学研究』2011.3 p.89 ~ 100 大阪大学大学院人間科学研究科 対人社会心理学研究室.
- チョ・ヒチョル (2002) 現代韓国を知るキーワード 77 大修館書店.
- 平松隆円 (2009) 化粧にみる日本文化 東京水曜社.
- あいかわグループ みやはる 美容の日本文化と韓国文化 < http://s.webry.info/sp/36172111.at.webry.info/201106/article_1.html > (2011.6.2 取得)
- 韓国人の美肌の秘訣は? < <http://niconicoland.com/skin/> > (2017.7.6 取得)
- 日本人の美の秘訣 < <http://youponch.com./2014/06/21/204670.> > (2014.6.21 取得)
- ポーラ文化研究所 やさしい化粧文化史 < <http://www.po.holdings.co.jp/csr/culture/bunken/muh/02.html> > (2011.5.18 取得)
- マイナビニュース 日本で驚いた美容法ってなに? < <http://s.news.mynavi.jp.> > (2013.2.10 取得)
- Mako みんなが知りたい韓国文化 < <http://korean-culture.com> > (2011.5.4 取得)